

極真への道



The way to
KYOKUSHIN
第17号

大洲警察署空手教室 創設30周年

オーストラリア開催
第7回極真連合杯
ワールドカップ

第2回全日本極真「型」
空手道選手権大会

地方初開催！中四国セミナー

戸田道場の歌
-誇りの場所-

Message

一般社団法人国際空手道連盟
極真会館 愛媛県戸田道場
代表師範 戸田美智男



大洲警察署空手教室創設30周年 ～戸田道場の原点 極真空手で人間力を磨く～

今年で大洲警察署空手教室を創設して30周年を迎え、3月15日の第26回大洲大会当日、地元の皆さんや県内の道場生が集まり祝賀会を行って頂きました。

長く刑事をしていた私が、1996年春に大洲警察署の生活安全課長に赴任し、少年事案の業務を初めて担当したことで色々考えた末に、子供たちに極真空手を教えてみようと思いついたのです。

私は、警察官には長く教えて来ましたが、子供たちに教えるのは初めてで不安はありましたが直ぐに大洲市の広報誌担当者に募集をお願いしたのです。

警察署で警察官がボランティアで空手を指導するという試みは非常に反響が大きく、初めての稽古に実に50人程の子供達が集まり大変驚いたのを昨日の様に思い出します。

仕事が終わった後の夜、週1回の稽古でしたが心と身体の成長を願って技の鍛錬はもちろんですが、挨拶等の礼儀を含めて厳しく指導していきました。

子供たちの技はどんどん進歩し、1年後に開催された四国交流大会では優勝を含めて驚くほど多数の入賞者が出て非常に嬉しく思いました。

その結果、益々指導に熱が入り、すっかり空手指導が生きがいとなったのです。

また、当時は子供だけの大会が県内になかったことから、翌年に地元企業の支援を受けて出場が無料の大洲少年大会を初めて開催し今に繋がっています。

しかし、私が赴任して2年後に転勤となって大洲を後にすることになり、指導を手伝ってくれていた大洲署職員の松本和彦先生が後を継いでくれ、山岡忠徳先生と一緒に指導を続けて子供たちを育ててくれたのです。

10年ほど前に松本先生が亡くなり、山岡先生が指導を継続をしてくれていましたが、昨年体調を崩して引退されてしまいました。

現在は野島悠伺先生と有馬寿也先生が指導の中心となり、私も月に1回行きますが、その他志賀西条支部長、寒作典員県消防師範代、寒作智美味酒支部長、烏谷三津支部師範代などが定期的に行って頂き支えてくれています。

事務関係は保護者であり、道場生でもある上浅絵里さんが全て行って頂いており本当に助かっています。

大洲教室が今も継続しているのは、故松本先生、山岡先生を初め皆さんのお陰であり心から感謝をしています。本当に有難うございます。

この大洲教室の経験が私のその後の空手人生に大きな影響を与えてくれ、指導する喜びを知り、潮見本部道場の開設や何より今年5月で設立15年目に入った極真会館戸田道場の源(みなもと)となったのです。

私は今後も30年前に子供たちが健やかに育つことを目的に始めたことを忘れずに、これからも活動を進めて行きたいと決心しています。

大洲警察署空手教室 創設30周年

2001年8月18日
大洲警察署旧武道場にて



大洲警察署空手教室創設30周年を迎えて 戸田道場師範代 楠田正志

本年、大洲警察署空手教室は創設30周年を迎え、3月に開催された大洲少年空手道大会終了後、創設30周年記念祝賀会が盛大に開催されましたので、大洲警察署空手教室創設の成り立ちや祝賀会の模様等について述べさせていただきます。

私は現在、松山三津支部と味生支部で師範代として指導をしていますが、警察官として働いており戸田師範の部下として2年間勤務し、また33年前に作られた愛媛県警極真空手部の初期の頃からの部員であり、大洲警察署空手教室の創設当時から関わっていて戸田師範の一番弟子だと勝手に思っています。

まず、大洲警察署空手教室（以下「大洲教室」）が創設されたのは、戸田師範が大洲警察署生活安全課長として赴任された平成8年になります。

戸田師範は、それまで、強盗犯や窃盗犯など犯罪者の検挙を主とする刑事部門でご活躍されておりましたが、今回の生活安全課という部門は、犯人の検挙だけでなく、犯罪の予防や少年非行の防止等予防活動も行う部門でありました。



2005年3月20日

当時少年非行は全国的に問題となっていた時期で、戸田師範は、大学生時代に修行していた極真空手を通して「少年非行に向き合い、子供たちの未来を守りたい」との強い思いから、大洲教室を創設され、指導にあたられました。

師範の指導方針は、空手の技術だけに偏らず、極真精神の伝承と礼儀作法を身に付けさせることにより、少年の健全育成を図るものでした。

ところが、警察官には転勤がつきもので、師範も教室創設2年後に大洲警察署から県警本部に転勤する時期が訪れました。

しかし、当時大洲警察署で勤務していた故松本和彦先生が引き継いで大洲教室の指導にあたられ、途中指導者の交代や、コロナ禍で稽古ができないなどの苦難もありましたが、各指導者が師範の教えを引き継いで、現在の指導者である野島先生、有馬先生に至っております。

こうした歴史を持つ大洲教室は戸田道場の原点であり、大洲教室で戸田師範から空手を学んだ道場生の中には、師範を目標として警察官の道に進んだ人もかなりの数おられます。



2000年1月3日
大洲肱川で寒行



こうして、本年度で創設30年を迎えたわけですが、本年3月15日に開催された第26回ヤングスリーS大洲空手道大会終了後、国立大洲青少年交流の家において、大洲警察署空手教室創設30周年記念祝賀会が開催されました。

祝賀会には師範代、各支部長、大洲教室の道場生や保護者の方など約80人が出席されました。戸田師範からのご挨拶に始まり、大洲教室道場生による力強い型演武、道場生及び保護者の代表者から師範への心温まるメッセージの後、県警空手部最高顧問の元刑事部長 石崎洋一さんの音頭で乾杯が行われ、懇談に移りました。

途中、サプライズ企画として、大洲教室の道場生から師範に対して感謝状の贈呈、各支部道場生からの心のこもった寄せ書きの贈呈などが行われると、師範も胸が熱くなられたようで感慨に浸られておりました。

会場には、師範の大学当時の空手の稽古風景など懐かしい写真等も飾られ、思い出話などで盛り上がっておりました。会の最後には、大洲教室の道場生の指揮により、「戸田道場の歌」を全員で合唱しました。

予定していた2時間は、あっという間に過ぎましたが、今回の祝賀会には、大洲教室以外の支部の道場生や保護者も参加するなど、いかに師範が慕われているか、また師範の少年の健全育成を図るという指導方針が、道場生に浸透しているかを感じさせられました。

大洲教室に始まった戸田道場は、今では18支部と県警空手部、県消防空手部そして松山学院高校空手部を有し、全日本クラスの組手や型の大会でも多数の入賞者を輩出するなど、強豪道場に成長しております。

今後も戸田師範を中心として、絆を深めて躍進していきましょう。



祝
30周年





(一社) 極真会館では、令和4年から極真会館の会員のみで全国型大会を2回開催し、令和6年からは他流派にも門戸を開くオープンな形での全日本型大会として型大会を行っていたが、出場した第1回及び第2回の全日本型大会で2連覇を成し遂げているのが、松山三津支部の小川紗良選手である。

小川選手は、普段はあどけなさの残る少女であるが、試合場に立つと、殺気を宿し眼光鋭く凛々しい顔つきに豹変し、研ぎ澄まされた演武で多くの観衆を魅了してきて他の追従を許していない。

普段から集中して稽古に取り組み、師である鳥谷師範代や楠田師範代から直す箇所を指摘がされると自宅で反復して稽古を行い、次の稽古には修正してくるという努力家であるからこそ、大会本番で実力を発揮できるのであろう。

今年の11月に横浜武道館で開催される、「第3回全日本型大会」には新中学生として出場する予定であるが「3連覇を目指します」と、その意気込みを力強く語っている。

いずれは世界大会型部門への出場の可能性も高く、是非とも海外の選手と戦う姿を見せてもらいたいと期待される。

今後も小川選手の活躍に大いに注目したい。

7TH KYOKUSHIN UNION CUP WORLD KARATE CHAMPIONSHIP 2025.11.22

オーストラリア第7回極真連合杯ワールドカップ

神原敏行選手 シニア男子 準優勝



神原選手が堂々の準優勝 戸田師範も世界大会で指導と 交流に尽力

2025年11月22～23日にオーストラリア・ゴールドコーストで開催された第7回極真連合杯ワールドカップでは、日本選手26名が出場し、優勝9名・準優勝6名・3位3名と圧倒的な成績を収めた。

戸田道場からは神原敏行選手が男子40～49歳85kg以下に出場し、決勝で金鐘吉選手に敗れたものの準優勝を果たした。戸田師範は選手団副団長として、選手支援やセミナーでの指導、昇段審査の審査員を務めた。

大会会場には14カ国の選手が集まり、審判講習会や組手セミナー、国際昇段審査も実施された。岡本徹師範や田畑繁理事長による技術指導や極真精神の講義が行われ、受審者たちは厳しい審査を乗り越えて合格し、感動の涙を見せる場面もあった。

また、選手たちは観光やパーティを通じて海外の極真仲間と交流を深め、ワールドカップは試合だけでなく、極真の技と精神を世界に広める重要な国際交流の場となった。





世界の舞台に立って感じたこと

—第7回極真連合杯ワールドカップを終えて—
神原 敏行（今治・松山鷹子・松山小野支部長）

このたび、オーストラリア・ゴールドコーストで開催された「第7回極真連合杯ワールドカップ」に、日本代表として出場させていただきました。シニアの部（40～49歳）、14カ国が参加するワールドカップです。結果は準優勝。まずは、日頃から支えてくださっている皆様に、心から感謝申し上げます。

今回のワールドカップ出場は、今年1月の全日本大会シニアの部で3位となり、日本代表選手に選ばれたことがきっかけでした。正直なところ、出場が決まった瞬間に特別な高揚感があったというよりも、「オーストラリアで戦う」という意識はすでに自分の中で始まっており、そこに向けて淡々と準備を進めていた、という感覚の方が近いと思います。

稽古面では、昨年出場したアジア大会で体感した外国人選手のパワーとスピードを強く意識しました。体重は85kg未満の階級だったこともあり、今回は減量の苦勞もなく、コンディション面で大きな不安はありませんでした。メンタル面についても、「ワールドカップだから特別」といった意識は持たず、常に普段通りであることを心がけました。特別視しないことが、自分にとっては一番の準備だったように思います。

当日、会場にはさすが世界大会だと感じさせる独特の空気がありました。言葉も文化も違う選手たちが集まり、まさに「世界の極真」を肌で感じる場でした。ただ、その雰囲気になじめないよう、あくまで普段の稽古の延長線上として、落ち着いて試合に臨みました。

世界大会ならではの感じたのは、日本代表同士の一体感です。国内大会では、同じ日本人同士がライバルとして拳を交えますが、世界の舞台では立場が一変します。日本人選手は皆「チームジャパン」として同じ側に立ち、声を掛け合い、互いの健闘を称え合う仲間になります。その空気はとても心強く、同時に「日本を背負って戦っている」という責任と誇りを強く感じました。個人競技でありながら、決して一人ではなく、みんなで戦っている——そんな感覚が、世界大会にはありました。

特に印象に残っているのは、準々決勝で対戦した地元オーストラリアの選手です。完全なアウェーの中での試合でしたが、技の強さだけでなく、気持ちの強さも含めて「地元の選手の力」を強く感じました。また、準決勝では昨年のアジア大会決勝で敗れているカザフスタンの選手と再戦し、再延長の末に判定勝ちできたことは、自分にとって大きな意味のある一戦でした。

決勝では、極真会館大阪浪速道場のキム・ジョンキル選手と対戦しましたが、結果は判定負け。優勝を目指してきただけに、準優勝という結果に対しては、「もっとできたのではないか」という思いが正直なところ。ただ、この悔しさがあるからこそ、次への目標がはっきりしました。2年後の無差別のワールドカップで、必ず世界チャンピオンになる。そのために、もう一度一から自分を磨きなします。

今回の大会で手応えを感じたのは、これまで重点的に練習してきたパンチが、世界の選手相手にも十分通用したことです。一方で、蹴り技、とくに上段蹴りなどの多彩さは課題として残りました。体格に関係なく、蹴りも使える選手になるため、今後はそこを重点的に強化していきます。

ワールドカップを通して改めて感じたのは「稽古だけでは世界チャンピオンにはなれない」ということです。道場のトイレのスリッパを揃えるなど、日常の小さな行動の積み重ねが、自分を作っている。極真は道場の中だけで完結するものではなく、生き方そのものと、強く実感しました。

生徒の皆さんには、「道場」や「地域」という枠にとらわれず、ぜひ世界に目を向けてほしいと思います。極真は世界中にあり、その先には想像以上に広い舞台があります。目先の結果に一喜一憂せず、長い目で自分の可能性を信じて進んでほしい。その姿勢こそが、必ず次につながります。

最後に、今回の挑戦を支援して頂いた戸田師範を初め、支えてくださったすべての方々に、心から感謝します。皆さんからいただいた応援や支援を、今度は自分が後輩や生徒たちに還元していく。それが、世界の舞台に立たせてもらった人間としての責任だと思っています。本当にありがとうございます。

第2回全日本極真「型」空手道選手権大会

戸田道場、全国最多9名入賞の快挙 — 小川紗良は2連覇達成

2026年1月10日（土）

横浜武道館



大山総裁の遺した極真空手の正しい在り方、そして新たな時代に合わせた取り組みとして、田畑繁理事長を中心に構築された全日本極真「型」空手道選手権大会（主催：一般社団法人国際空手道連盟極真会館）の第2回大会が、令和8年1月10日に開催された。

本大会には全国から591名のエントリーがあり、会場の横浜武道館では、33カテゴリーにわたり、実戦空手ならではの迫力ある型競技の争いが繰り広げられた。

愛媛県戸田道場からも精鋭が出場し、9名の道場生が入賞。これは全国の道場の中でも最多の入賞者数である。

優勝は、寒作智美（壮年女子45—49）、村上晴紀（高校生男子）、小川紗良（小学6年女子）、鈴木陽加里（小学1年女子）、準優勝は濱井敦史（壮年男子60—64）、第3位は秋月騎心（小学6年男子）、芳野広翔（小学2年男子）、第4位は荒牧基尚（壮年男子45—49）、滝野琥太郎（小学3年男子）。

大会レベルは昨年を遥かに凌駕し、多くのディフェンディングチャンピオンが決勝を迎える前に敗退する事態となった。極真会館愛媛県戸田道場でも、昨年の型全日本王者であり絶対的な実力を持つ福田こころ、日野聖太が入賞を逃し、濱井敦史は素晴らしい型を披露するも僅差で準優勝となった。





そのような中、小川紗良は2連覇を果たし、地方大会を含めて2年間無敗という偉業を成し遂げた。その演武は、技の正確さはもちろん、これまで積み重ねてきた努力と覚悟が一つひとつの動きに宿り、観る者の心を揺さぶる堂々たるものであった。

また、昨年準優勝の寒作智美は、ディフェンディングチャンピオン鹿内茜を破った木田奈端子を決勝で下し、これまでの悔しさを力に変えた渾身の型で優勝を掴み取った。

さらに、昨年第4位の村上晴紀は、高校生男子カテゴリーには初挑戦となる大舞台で、強豪ひしめくトーナメントを堂々と勝ち上がり、準決勝では大会2連覇中の中見瀬斗を破る大金星を挙げ、見事優勝という最高の結果を手にした。



そして、鈴木陽加里は、初出場とは思えない落ち着きと気迫を見せて初出場初優勝という快挙を達成し、記録にも記憶にも残る大会となった。

年々一足飛びにレベルが向上する本大会は、今後ますます研究が進み、大きな進化を遂げていくだろう。体力や体格が有利に働きやすいフルコンタクト空手にあって、型競技は、大山倍達総裁の技術と意志を正しく受け継ぐ者こそが勝者となり得る新たなカテゴリーである。今後ますますの飛躍を期待したい。

(記:戸田道場師範代 寒作典員)



第12回オープントーナメント 四国選抜空手道選手権大会

令和7年今治市山林火災支援チャリティ

2025年8月3日(日)

愛媛県武道館主道場

例年は秋に行われてきた本大会が、今年は初めて真夏の開催となった。上級・中級(セカンド)・初級(ファースト)の3クラス、67カテゴリーにわたり、東京から九州まで全国13都府県から過去最多となる50流派・563名が出場。幼年から高校生までは全日本大会選考大会。真夏の熱気と選手の闘志が交錯し、会場はまさに灼熱の舞台と化した。

さらに、大会は今年3月に発生した今治市山林火災のチャリティも兼ねて実施。開会式では戸田師範から支援金が贈られ、徳永今治市長から感謝状が授与された。会場の募金箱にも多くの善意が寄せられ、スポーツと地域支援が見事に結びついた大会となった。

一般男子/一般女子 上級の部

一般男子上級の部・軽中量級では、三上和久(戸田道場)が準決勝で松井瞭誠(戸田道場)を下突きにより技あり合わせて一本勝ちで退け決勝に進出。もう一方の準決勝では、松井弥陸(戸田道場)が蘆谷幹也(戸田道場)に突き蹴りを的確に決め、危なげない判定勝利を収めた。

決勝は昨年と同じ顔ぶれによる同門対決。互いにフットワークを生かし探り合う展開となったが、地力で勝る三上和久がじわじわと圧力をかけ続け、主導権を握り判定勝ちを収めた。重量級決勝戦は、二連覇を狙う三上汰明(戸田道場)と、怪我から二年ぶりに復帰した櫻井隼斗

(戸田道場)による極真戸田道場同士の激突。序盤から若さと勢いに勝る三上汰明がスピードで主導権を掌握し、復帰戦で試合勘を取り戻しつつあった櫻井を寄せ付けず勝利。見事、二連連続の戴冠を果たした。

兄弟の快挙達成後、兄・和久が「弟の頑張りを誇りに思う」と語り、弟・汰明は「兄の支えがあったからこそ勝てた」と感謝を述べた。兄弟の固い絆が、二階級制覇という輝かしい成果を生み出した。

一般女子部門は九州最強の呼び声高い渡部はるあ(悠心道場)が決勝で前田愛花(極真長谷場派前田道場)をスピードで翻弄。期待通りの優勝をさらった。

The 12th Open Tournament Shikoku Invitational Karate

Championship



高校生男子/壮年男子 上級の部

高校生部門軽量級決勝は高岡日向（悠心道場）が膝蹴りの連打で西岡風輝（河野道場）を延長戦の末に下し、二連覇を達成。重量級決勝は吉田京生（道真会館）が佐伯魁成（極真戸田道場）に上段回し蹴りを決め一本勝ち。若き覇者として存在感を示した。

壮年部門軽中量級決勝は山下学（戸田道場）が長井良太（志長會）を判定で下し、二年ぶりに頂点へ返り咲いた。重量級決勝は神原敏行（戸田道場）が松木洋三（戸田道場）を抑え込み、堂々の優勢勝ち。経験と実力の差を見せつけた。

会場を包んだ熱気と感動

長丁場の大会でありながら、観客の多くが最後まで試合に釘付けとなり、一戦ごとに歓声と拍手が響いた。また特別賞として、愛媛県知事賞や松山市長賞をはじめ、数々の栄誉が選手たちに贈られ、努力と実力が称えられた。
（記：戸田道場師範代 濱井敦史）



2026全日本少年少女極真空手道選手権大会 グランドチャンピオン・ザ・ファイナル

2026年7月11日～12日（土・日）守口市市民体育館にて開催

出場者の決意

佐伯莉沙
（西条・小2）
最後まで全力で
頑張ります！



和田千珠
（氷見・小4）
思い切って闘っ
てきます！



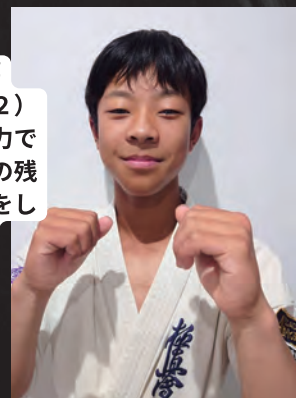
片岡快晴
（宇和・小4）
入賞目指して全力で頑
張ります！



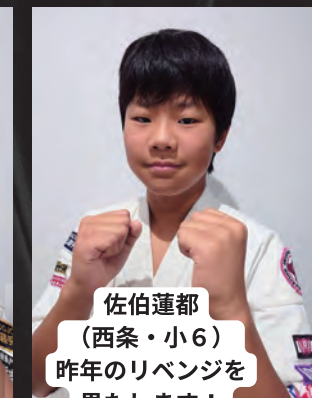
堀川大心
（今治・小4）
戸田道場の代表
として、優勝目
指して頑張ります！



佐伯大嘉
（西条・中2）
一戦一戦全力で
挑み、悔いの残
らない試合をし
ます！



佐伯蓮都
（西条・小6）
昨年のリベンジを
果たします！



近藤悠誠
（鷹子・中1）
初出場！全力を尽して
頑張ります！



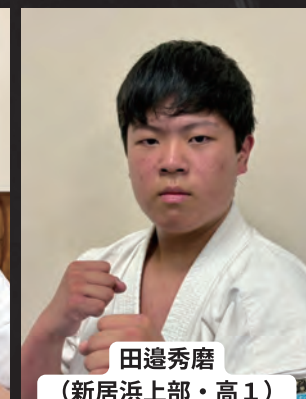
上浅史人
（大洲・中2）
自分に打ち勝
ち、持っている
力を全部出しき
れるよう頑張
ります！



佐伯魁成
（潮見本部・高2）
一試合、一試合を大切
にし優勝したいです！



田邊秀磨
（新居浜上部・高1）
勝つことに拘って試合
に臨みます！



福田優心
（新居浜上部・高1）
頑張って優勝します！



岡裕人
（本部・高1）
高校生最初のグラチャン、
一戦一戦を丁寧に戦い、今
年こそは優勝できるように
頑張ります！



福田ゆう
（新居浜上部・中2）
一生懸命頑張って優勝
目指します！



第26回ヤング3S大洲空手道大会

全日本極真「型」空手道選手権大会 選抜大会

2026年3月15日(日)
大洲市総合体育館

ー大洲から全国へ 型競技がつなぐ礼節と挑戦ー

令和8年3月15日、大洲市総合体育館にて「第26回ヤング3S大洲空手道大会」が開催されました。本大会は、愛媛県警察極真空手道部と極真会館愛媛県戸田道場が運営する青少年育成を目的に続けられてきた伝統ある大会です。今年は全国から244名が参加し、11月に横浜武道館で開催される「第3回全日本極真『型』空手道選手権大会」の選抜大会としても注目を集めました。

開会太鼓が鳴り響くと、会場は一瞬で静寂に包まれました。国旗掲揚に続き、大洲警察署長、愛媛県警空手道部部長、そして大会運営委員長である戸田美智男代表師範が挨拶を行い、空手を通じた青少年育成と地域の安全への願いが語られました。

戸田代表師範は、「型稽古の重要性を再認識し、フルコン空手界にも型競技が広がることを願っています」と述べ、型競技の未来に向けた強い思いを示されました。

また、被害者支援センターへの支援金贈呈も行われ、空手を通じた地域貢献の姿勢が示されました。



開会式後には、少年部による「突きの型」の演武が披露されました。司会者からは「突き技を中心に構成された型で、腰の移動や足の運び、突きの正確性が重要視されています」と説明があり、選ばれた少年部の動きはまさにそのお手本となるものでした。

続いて、戸田師範・師範代・支部長による「征遠鎮」の型が披露されました。重厚な呼吸と緩急のある動作が織りなす迫力に、観客席からは大きな拍手が送られました。

今年の選抜クラスは、2026年11月開催予定の第3回全日本極真「型」空手道選手権大会の予選を兼ねており、各コートでは緊張感あふれる演武が続きました。

1月に開催された第2回全日本極真「型」空手道選手権大会では、戸田道場から優勝4名・入賞9名という快挙があり、その勢いは今大会でも健在でした。

特に注目を集めたのは、小学6年女子の小川紗良選手（戸田道場）と高校生男子の村上晴紀選手（戸田道場）です。いずれも第2回全日本極真「型」空手道選手権大会の優勝者であり、今年の大洲大会でも堂々の優勝を飾りました。

また、壮年女子Bの寒作智美支部長、壮年男子Dの濱井敦史師範代も貫禄の優勝を果たし、指導者でありながら挑戦し続ける姿は、今年も多くの道場生の心を動かししました。

さらに一般女子では、富山莉奈選手（志誠館）が昨年に続き圧巻の演武で優勝しました。他流派ながら強い存在感を示し、観客を魅了しました。

チャレンジクラスでは、未来の選抜クラスを目指す選手たちが躍動しました。他流派の選手も多く入賞し、これからも切磋琢磨しながらお互いに成長していきたいと感じました。



今年も、愛媛県警察極真空手道部を中心に、審判・スタッフ・保護者の皆様が大会運営を支えてくださいました。「大会を円滑に進めるための細やかな対応」が随所に見られ、選手たちは安心して演武に集中することができました。

大会では、地元企業アイテック様からのハンドクリーム提供、大洲地区防犯協会様からの記念タオル配布など、地域の温かい支援が選手たちを後押ししました。

2027年開催予定の「第6回世界大会」では、型競技が初めて導入される予定です。型競技は年齢・性別を問わず挑戦できる武道であり、その精神性と技術の奥深さは、今後さらに広がりを見せると感じています。

今年の大会は、技の美しさ、気迫、礼節、そして地域の温かさが融合した素晴らしい一日となりました。

また選手たちの真剣な姿は観る者に勇氣と感動を与え、大洲の地に根付いた空手文化の豊かさを改めて感じさせるものでした。

次回の全日本大会、そして世界大会へ向けて、大洲から羽ばたく選手たちのさらなる成長が楽しみです。（記：戸田道場師範代 杉野弘昭）

第26回ヤング3S大洲空手道大会 入賞者

選抜クラス	優勝	準優勝	第3位	第4位	ベスト8
幼年の部	川上 颯人	極真戸田道場	濱本 大登	極真戸田道場	
小学1年生男子の部	清居 菜央	極真戸田道場	柳 琥太郎	志成館	
小学1年生女子の部	芝軒 佳子	極真桑島道場	鈴木 陽加里	極真戸田道場	
小学2年生男子の部	芳野 広翔	極真戸田道場	西田 弦ノ介	極真戸田道場	福田 直生
小学2年生女子の部	星野 衣寿	極真桑島道場	笹山 そわか	極真戸田道場	
小学3年生男子の部	日野 聖太	極真戸田道場	片岡 快晴	極真戸田道場	滝野 琥太郎
小学3年生女子の部	正木 麗実	悠心道場	星野 喜衣	極真桑島道場	橋本 妙奈
小学4年生男子の部	目吉 恵琉	極真戸田道場	小西 奏大	極真戸田道場	中川 幹太
小学4年生女子の部	川久 実愛凜	志誠館	矢野 杏史	極真戸田道場	
小学5年生男子の部	門田 海碧	悠心道場	吉田 藍人	極真戸田道場	三宅 翔真
小学5年生女子の部	福田 ころこ	極真戸田道場	櫻田 志歩	極真戸田道場	極真宗政道場
小学6年生男子の部	谷口 莉駒	極真戸田道場	秋月 騎心	極真戸田道場	玉井 陽翔
小学6年生女子の部	小川 紗良	極真戸田道場	樽古 柑奈	悠心道場	中野 太智
中学生男子の部	寒作 心	極真戸田道場	田邊 秀磨	極真戸田道場	極真桑島道場
中学生女子の部	平池 柚葉	極真桑島道場	石丸樹里	悠心道場	伊奥田恵士(極真戸田道場)、古江理人(極真戸田道場)
高校生男子の部	村上 晴紀	極真戸田道場	池内 琥星	極真戸田道場	関部銀将(悠心道場)、河野光快(極真戸田道場)
高校生女子の部	村上 咲弥	極真戸田道場			
一般男子の部	野島 悠同	極真戸田道場			
一般女子の部	富山 莉奈	志誠館	鮫島 凜織	志成館	近藤佑希(極真宗政道場)、兵頭海輝(極真戸田道場)
男子A35～39才	小池 一平	極真戸田道場			吉田琥太良(極真宗政道場)、日野煌大(極真戸田道場)
女子A35～39才	野村 愛里佳	極真戸田道場			
男子B40～44才	兵頭 佑哉	極真戸田道場			
女子B40～44才	瀧平 陽子	極真戸田道場			
女子B45～49才	寒作 智美	極真戸田道場			
男子D50～54才	村上 哲也	極真戸田道場	村上 敦	極真戸田道場	
女子D50～54才	宮崎 小織	極真戸田道場			
男子E55～59才	小笠原 慎吾	極真桑島道場			
男子F60～64才	濱井 敦史	極真戸田道場			
チャレンジクラス	優勝	準優勝	第3位		
小学1・2年生の部	小野 晴大	極真戸田道場	梶島 楓月	極真戸田道場	宮本 渚左
小学3・4年生の部	戸井 綺斗	悠心道場	井手 夏希	悠心道場	吉村道場
小学5・6年生の部	伊藤 心虹	河野道場	戸田 惟千香	道真会館	田丸 穹
中学生の部	中本 陽翔	吉村道場	上神 瞳子	極真戸田道場	悠心道場
高校生男子の部	増子 茜	極真戸田道場			極真戸田道場
一般男子の部	片岡 宏泰	極真戸田道場			



地方初開催！中四国セミナー

世界チャンピオンセミナー・ハートポイント試合講習

審判ライセンス講習を同時開催

2026年5月5日(火祝)・6日(水祝)
愛媛県武道館柔道場

地方初の試み

中四国セミナー、松山で開催

大型連休も終盤を迎えた5月5日、6日の2日間、愛媛県松山市において中四国セミナーが開催されました。

このセミナーは世界大会に向けた選手の育成、子供たちの安全を守る試合であるハートポイント試合普及を目指した講習、そして組手・型試合の的確な審判ができる審判員の要請という3つの目的のために地方で初の試みとして、極真会館戸田道場の戸田美智男師範が企画して開催しました。

講師として極真連合会から山形の田畑繁理事長、福井の高橋康夫師範、富山の小井義和師範、そして宮崎の山下武範師範の4人の師範方が愛媛県武道館に集まって頂き開催したものです。

世界チャンピオンが直接指導 芦高選手のテクニックセミナー

1日目の5月5日(祝 火)は、午後から第5回極真連合会世界大会チャン



ピオンである芦高侑平選手を大阪からお招きして、そのテクニックを余すことなく公開して頂き①ローキックの蹴り方 ②ポジショニングの取り方 ③プレッシャーの掛け方 ④ラッシュの仕掛け方の4点を重点にして、モデルの選手を相手に丁寧にかつ見本の動作を行いながら長時間に亘り指導をして頂いたのです。

参加者は地元の戸田道場は基より、東京の三和道場、香川の桑島道場、広島宗政道場から一般部を中心に70人を超える道場生が集まりました。

テクニック指導の後は約1時間かけて指導を受けた技を試しながら、熱く激しいスパーリングを30ラウンド行いました。

セミナー終了後には、参加した選手は世界チャンピオンの指導を受けた喜びを芦高選手に伝えながら、一緒に写真に写るなど、かけがえのない交流のひと時を過ごしました。



安全な試合を目指して ハートポイントルール講習

後半は子供たちの身体の負担を減らし、安全かつ安心な試合方法であるハートポイントルールの講習を理解と普及を目指して、考案者の小井師範が行いました。

ハートポイント試合は胸部に電子防具のプロテクターを装着し、突き技が決まるとコート外に設置されたランプが点滅しポイントとなる仕組みで、従来のフルコンタクト競技方法を併用しながら行われるもので、本来の空手の間合いを維持しながらスピード感溢れる試合を行うことが可能となります。

講習後には参加した一般部黒帯が練習を兼ねて審判を行い、高校生以下の選手が2コートに分かれて練習試合を行いました。

選手は従来の直接打撃制と違う間合いやスピードに戸惑いながらも、直ぐに試合方法に慣れて熱心に試合を行っていました。

試合の価値を高めるために 組手・型の審判講習

翌日の6日(祝水)は午前中から審判講習を実施し、地元愛媛以外に遠く京都や大阪、隣の香川から26人が集まり各クラスの審判ライセンスの取得を目指しました。

前半は田畑理事長による組手の審判講習が行われ「試合そのものの価値を上げるのは審判であり、審判により試合は作られ観客を魅了する。」との熱いメッセージを話された後に審判動作を何度も反復して行いながら、反則、判定の基準などを1時間30分に亘ってこと細かく指導されました。



最後に、上級ライセンス受講者の主審の動作、コールについて実際に行う実地試験が行なわれました。

その後、別室にて講義の内容を問う筆記試験を行った結果、全員が合格の発表を受けたのです。それに続いて小井師範により型試合の審判講習が行われ、指定された選手が今年11月に横浜武道館において開催される「第3回全日本型選手権大会」の指定型を行いながら、審判の判断基準について細かい指導を受けました。

講習後には質問の時間が設けられ、受講者から多くの疑問が出され、小井師範や臨席している師範方に的確な回答をして頂き質問者全員が納得した様子であり、今後の審判に行かせることと思われました。

昼休憩を挟んで午後は初中級者による練習試合が行われ、受講者は実際に審判を行い師範方から動作や判定で修正点を指摘されて講習の成果を確かめました。

大きな成果を上げて 二日間の締めくくり

二日間に亘った中四国セミナーは、世界大会に通じる選手育成を図った世界チャンピオンセミナー、組織としてハートポイント試合の普及推進、そして組手と型の的確な審判を行うことを目的とした審判講習という目的のために行いましたが、いずれも大きな成果を上げることができて成功裡に終わりました。

田畑理事長を初め、全国から指導に来て頂いた師範方に厚く御礼を申し上げます。

(記：戸田道場師範代 濱井敦史)



2025小学生組手団体戦

2025年11月16日(日)
砥部町ゆとり公園内武道場

2025年11月16日(日)昇級審査終了後の午後から砥部町ゆとり公園内武道場において「2025極真会館愛媛県戸田道場内小学生組手団体戦」が開催されました。

今回も各支部から選抜された1チーム3人の選手が低学年の部と高学年の部に分かれ、トーナメント方式で戦いました。仲間でもありライバルでもある支部間の戦いはいつもの個人戦とは一味違って熱い声援に会場は大いに盛り上がりました。仲間意識や武道の精神が披露された思い出の一日になりました。

仲間とつかんだ優勝のトロフィー

低学年優勝 西条氷見チーム
矢野 佑吏(西条氷見支部)

僕は去年初めて団体戦に出場しました。その時は1年生だったけど2年生と3年生がいたので緊張はしませんでした。みんなで力を合わせて3位になりました。団体戦にまた出たいと思っていました。今年は3年生がいなかったの、僕と1年生の2人で出るようになりました。2人だったので優勝できるか心配でした。試合の前には4年生の先輩がミットを持ってきて、アドバイスをしてくれました。西条氷見支部は低学年の部の第1試合で、相手の支部は1年生の子がいなかったの僕が最初の試合でした。とてもドキドキしたけど、頑張っって勝てました。2試合目も相手の支部の1年生がいなかったの、僕が負けると1年生が試合出来なくなってしまうので、絶対に勝とうと思っていました。3試合目で1年生が試合できました。試合前に2人で「絶対勝とうね。」と話していました。1年生もが

んばっていたので僕も頑張れました。

決勝戦の前に、他の支部の大人の人が「決勝頑張ってね。」と声をかけてくれました。頑張っって優勝しようと思っていました。決勝戦は相手の支部は1年生がいなくて、西条氷見支部は3年生がいなかったの2年生の勝負でした。決勝戦はワクワクしました。本戦は引き分けで延長戦になりました。延長戦は志賀先生が褒めてくれた技をたくさん出して勝つことが出来ました。優勝して大きいトロフィーがもらえて嬉しかったです。試合の後に、他の支部の2年生が「優勝おめでとう！」と言ってくれました。とても嬉しかったです。団体戦や部内交流戦、リーグ戦で他の支部の友達が出来ました。

西条氷見支部のみんなと稽古をもっと頑張っって志賀先生みたいに強くなりたいです。グラチャン優勝を目指して頑張ります。

みんなで勝ち取った金メダル

高学年優勝 本部・味酒合同チームA
古江 理人(松山味酒支部)

今回、空手の団体戦で大将として出場し、チームとして優勝することができました。いつもの大会はそこまで緊張しないけど今回の大会は団体戦ということもあって自分が負けたら終わりという責任感と去年出た時は3位だったので優勝してやろと思ひ、そして僕は大将なのでさらにプレッシャーがかかりいつも以上に稽古に取り組みました。試合本番ではチームの優勝目指して「みんなで頑張ろう」と言って気合いを入れました。

僕は決勝戦まで試合はしなかったけど仲間の中川くんと土井くんが一生懸命戦ってくれて、その姿を見て「自分も最後までしっかりやりきろう」と気持ちが引きしまりました。

決勝戦では同じ味酒のチームだったけど「決勝戦まで来たんだから優勝しよう」とチームメンバーに言って気合いを入れました。

試合前に相手チームの大将に「お互い頑張ろう」と言うのと相手も「頑張ろう」と返してくれたので試合前の緊張は

少し緩みました。

決勝戦は緊張していましたがちゃんと落ち着いて試合に臨もうと思いました。

試合は1対1で大将戦で決着が着く展開で、僕は緊張しながらもいつもやっていることをすれば大丈夫と自分に言い聞かせました。

試合中は上段回し蹴りを狙いつつ自分を上段回し蹴りをうけないようにガードを徹底しました。

自分が上段回し蹴りを蹴って技が入った時はまだ喜ばないで冷静にと思ってしっかり残りの試合をしました。

結果は優勝して、チームのメンバーでとても喜びました。

小学生最後の団体戦だったので優勝できてとても嬉しかったです。そしてここまで一緒に努力してきた仲間と決勝で戦えたことが、すごく特別な経験になりました。

今回の大会で、仲間の大切さや、努力を続けることの大事さをあらためて感じました。これからももっと強くなれるように稽古を頑張ります。



結果

低学年の部

優勝 西条氷見支部

準優勝 新居浜高津支部

第三位 本部・味酒合同チーム

第三位 松山味酒支部

高学年の部

優勝 本部・味酒合同チームA

準優勝 本部・味酒合同チームB

第三位 今治・鷹子合同チーム

第三位 松山空港通支部



松山学院高等学校 極真空手道部

2年目始動！

—新体制と新戦力でさらなる高みへ—



松山学院高等学校極真空手道部が創部2年目を迎え、さらなる躍進に向けて新たな一歩を踏み出しました。

指導体制の大きな柱として、多方面で活躍実績を持つ三上和久先輩が新たにコーチに就任して下さいました。経験に基づいた的確かつ論理的な指導は、部員たちにとって大きな刺激となっています。さらに、学校側のサポート体制として、山田学先生が新たに副顧問に就任し、安全・運営の両面から部を強力にバックアップする体制が整いました。

この強力な指導陣のもと、今年度も、志高い生徒たちが新入部員として加わりました。先輩たちの背中を追いかけ、日々熱心に稽古に励む新入部員の姿は、部全体に新鮮な活気をもたらせています。

今後の部員たちの、人間的な成長と大会での飛躍等にご期待ください。

(記：松山学院高等学校極真空手部監督 岡田真治)



Report

2026

稽古初め&黒帯総会

2026年1月18日(日)
戸田道場修練所

2026年1月18日(日)、修練所にて本年度の稽古始めが執り行われました。戸田師範の号令の下、準備運動・基本稽古と進み、メインの型稽古では昇段受審者と大洲大会出場者にグループ分けを行い、各指導者より細やかなご指導をいただきました。昇段審査を受審する私は、濱井師範代のご指導のもと指定型の稽古を行い、技の習熟度と精度の向上に努めました。

後半は崩しの稽古で、輪受けからの投げと裏投げをご指導いただきました。昨年度から昇段審査項目に追加されたこの項目は、戸田師範の空手家・警察官としてのノウハウが詰まった技術の一つです。教えていただいたことを持ち帰り、日々の稽古で確実に身に付けていきたいと思っています。

午後からは黒帯総会が行われました。総勢26名が参加し、活発な議論が交わされました。大洲大会の運営方針から始まり、四国選抜大会やセミナーなど各種行事の進め方について話し合わせ、予定時間を30分以上超える白熱した会議となりました。

また、選手育成についても議題として取り上げられ、松山市で実施している強化稽古を県内全域へ広げ、県全体のレベルアップに努めることとなりました。神原支部長を中心に、若手選手を指導する指導者も多く、充実した稽古内容となっています。多くの選手の参加をお待ちしております。

新年度の活動に向けて、戸田道場全体が一丸となって取り組む意識を共有できた、有意義な一日となりました。

(記：戸田道場 黒帯会会長 櫻井隼斗)



令和8年度昇段審査 ― 全員合格、新黒帯9名誕生

2026年4月12日(日)
戸田道場修練所



一黒帯という本当のスタート地点へー

4月12日(日)、昨年に引き続き三津修練所で今年度の昇段審査が行われ、二段に2名、初段に7名(内女子1名)が受審しました。

二段には高津支部、川東支部で高津支部長の右腕として頑張っている壮年部の白石将博副支部長(高津・川東)、そして選手を引退して後進の指導に専念するという新米パパで一般部の櫻井隼斗先輩(今治)が挑戦しました。初段には紅一点の工藤瑚乃美さん(県警)ははじめ一般部の榎祐輔さん(今治)、高校生の白石悠翔くん(高津)、池内琥星(味酒)、井口尊心くん(三津)、中学生の寒作心くん(本部)、岡田拓真くん(空港通)という若いメンバーが顔を揃えています。

準備運動後、基本の中段突き100本から始まり、蹴り、移動が終わるころには誰もが息も絶え絶えとなっていました。



それでも戸田師範からは気合が感じられない、もっと腹から声を出せと檄を飛ばされ、受審者全員が気を振り絞って型まで完了しました。

続いて昨年から審査項目となった崩しからの極めを2種類、二人一組となっていきました。全員及第点でした。この技は空手の基本動作であり、もっと稽古して実践でも使えるようにする必要があります。

さてこれから先は昇級審査にはない昇段審査の厳しい現実が待っている項目です。開脚やボール蹴り、足掛け立ち、棒飛び、さらには逆立ち歩行や拳立て伏せ100回という体力審査です。しっかり稽



古してないと、絶対完遂できない項目です。今回の受審者は高確率でそれぞれの項目に合格しました。普段から真剣に取り組んでいることがよくわかりました。

ここまでで午前の部が終了し、休憩をはさみ午後は10人組手、20人組手という昇段審査の中で最も過酷で厳しい審査項目が待っています。

まずは初段受審者の中学生・高校生の連続組手から始まりました。握り棒を握り素手で対戦する初めての組手に緊張感を隠せません。対戦相手は同じく受審しているライバルだったり、各道場の格上の先生、先輩だったりします。井口くん、寒作くん、池内くん、岡田くんは若い力を振り絞り、倒れそうになりながらもス



ピードと瞬発力、スタミナで10人を完遂しました。今回親子で受審している白石くんは、これまで非常に良い動きでしたが、途中アクシデントに見舞われ膝を怪我して途中棄権となってしまいました。そして一般部の榎さん、途中苦しみながらも気力を振り絞り完遂。工藤さんは男子の対戦相手を後ずさりさせるほどの勢いで完遂。

最後は二段受審者の2名です。壮年部現役選手の白石副支部長は、息子の悠翔くんの怪我を心配しながらも迷いを振

り切って、そうそうたる対戦相手に真っ向挑みました。またこれまで戸田道場の看板選手の一人として若手を引っ張って来た櫻井先輩は、実力通りの多彩な技を駆使して必死の形相で戦い抜きました。

組手審査の途中、戸田師範は受審者に対して、苦しい時に苦しそうな顔をするなど厳しい言葉を何度もかけられ、その都度皆が勇気を振り絞り気迫を表に出し乗り切りました。弟子を思う優しさに裏付けられた厳しい叱咤激励でした。途中怪我で棄権した白石悠翔くんは後日、

連続組手の続きを潮見本部で受け、見事完遂しました。この結果、今回の受審者全員が合格となり、新たな二段が2名、初段が7名誕生しました。これからの戸田道場を背負ってくれる若い世代の黒帯が多数生まれたことに喜びを感じます。そして初段の皆さんには、黒帯という空手修行においての本当のスタート地点に立ったことを自覚していただき、二段の方々にはさらに上を目指して修行に励んでいただきたく期待します。

(記：戸田道場師範代 濱井敦史)



昇級審査合格者

令和7年7月6日（日） 砥部町ゆとり公園武道場

少年部 61人
◇1級 小川紗良（三津） ◇2級 佐伯大嘉（西条）、谷口莉駒（今治）、東大翔（本部）、秋月騎心（味生） ◇3級 西濱政希（本部）、二宮新太（本部）、松本朱華（味酒）、古江理人（味酒） ◇4級 佐伯蓮都（味酒）、坂本國弘（本部）、松本藍希（味酒）、土井瑛介（味酒）、河野光快（味生）、濱本稜斗（三津） ◇5級 玉井陽翔（西条）、池田郁翔（本部）、中川琉偉（本部）、瀧平陸翔（味酒）、井口心葵（三津）、山本日向（味生）、増田令（大洲）、櫻田志歩（内子） ◇6級 星加遥希（西条）、堀川大心(今治)、高須賀大和（鷹子）、野本龍新（鷹子）、野本月虎（鷹子）、野本朔弥（鷹子）、和田一真（本部） ◇7級 野村圭吾（味酒）、瀧平寛人（味酒）、高木美来（氷見）、永井悠輝（今治）、岡本怜旺（本部）、井手心結（鷹子） ◇8級 伊藤浩太郎（西条）、高木栄汰（氷見）、笠松拓矢（本部）、仲田怜翔（本部）、青木瑛太（本部）、小池澄音（宇和）、山本蓮桜（味生） ◇9級 片岡志月（上部）、藤岡葵（西条）、村上桃夏（氷見）、川又陽菜（氷見）、兵頭結愛（空港通）、松岡粹太郎（空港通）、八島九才（空港通）、山本琉唯（味生） ◇10級 片岡陽己（上部）、小野晴大（高津）、川上颯人（高津）、佐伯莉沙（西条）、川又惟人（氷見）、山之内迅（空港通）、岡本瀬伊（味生）、和田優季（味生）、井手悠誠（鷹子）、小池魁希（宇和）

一般部 18人
◇1級 蘆谷幹也（川東）、穂木徹（高津）、武智百香（本部）、土井湊太（味酒） ◇2級 玉井亮史（西条）、高橋蒼大（本部）、越智隆史朗（味酒）、瀧平陽子（味酒）、野村愛里佳（味酒）、横道葵衣（本部）、佐伯魁成（本部） ◇3級 丹下夏海（今治） ◇4級 星加晃志（西条）、持田知（味酒） ◇5級 徳弘明優（県警） ◇6級 片岡宏泰（高津） ◇7級 中谷心結（本部） ◇8級 上浅絵里（大洲）

令和7年11月16日（日） 砥部町ゆとり公園武道場

少年部 57人
◇2級 安井祐貴（今治）、荒牧晃希（空港通）、福田こころ（三津）、近藤悠誠（鷹子） ◇3級 浅海琥雅（上部）、伊與田恵士（味生）、野本明那（鷹子）、武田禪（鷹子）、和田鈴奈（氷見） ◇4級 片岡快晴（高津）、別宮希琉（今治）、別宮麗羽（今治）、品川心作（本部）、中坂要一郎（鷹子）、渡部結衣（三津）、日吉恵琉（本部） ◇5級 山本響生（高津）、滝野琥太郎（高津）、井上蒼士（川西）、井上慶士（川西）、芳野翔馬（本部）、芳野広翔（本部）、秦章翔（鷹子）、杉森翔太（氷見）、玉井ちひろ（本部）、冲江歩（大洲） ◇6級 櫻田一心（上部）、平岡力樹（本部）、渡部煌成（三津）、野本咲月（鷹子）、石丸凌空（鷹子）、中坂映亮（鷹子）、伊藤めいこ（西条） ◇7級 久保田恭平（味生）、越智勇仁（氷見）、渡部冠妃（今治）、加藤光（本部）、福田直生（三津）、白石優吏（鷹子）、笹山仁和（大洲）、笹山そわか（大洲）、清居茉央（大洲） ◇8級 伊藤慈桜（氷見）、小野俊介（味酒）、森武由羽（味酒）、立石恭資（鷹子）、石丸大暉（鷹子）、白石茉那香（鷹子）、梶島藍菜（西条）、中川結菜（明浜） ◇9級 松浦美月（上部）、松浦愛珠香（上部）、梶島柊護（西条）、住田旬（内子） ◇10級 藤岡虎雅（本部）、小櫻明梨（味酒）、見勢澤（味酒）
一般部 18人
◇1級 福田心優（上部）、宮崎悠一郎（本部）、竹田依緒莉（味酒）、兵頭海輝（三津）、秦瑞来（鷹子）、小池一平（宇和） ◇2級 石井彰（今治）、中田祐太（味酒） ◇3級 杉森真衣（氷見）、松下環士（空港通）、松本匡男（明浜） ◇5級 日野慎太（川東）、岸佑多（川東）、岡本龍弥（本部） ◇7級 築山信哉（鷹子） ◇8級 野尻勝彦（今治）、壽崎夢翔（明浜）、宮内彩羽（松山学院）



令和8年3月22日（日） 愛媛県武道館剣道場



少年部 62人
◇2級 二宮新太（本部）、西濱政希（本部）、渡部陽道（三津） ◇3級 日野聖太（川東）、八木結聖（今治）、河野光快（味生）、櫻田志歩（内子） ◇4級 井上蒼士（川西）、玉井陽翔（西条）、小西奏大（今治）、中川琉偉（本部）、瀧平陸翔（味酒）、増田令（大洲） ◇5級 星加遥希（西条）、菅陸人（今治）、堀川大心（今治）、野本朔弥（鷹子）、野本龍新（鷹子）、野本月虎（鷹子）、高須賀大和（鷹子）、矢野杏吏（氷見）、高木美来（氷見） ◇6級 李子丞（川東）、池田仁華（本部）、瀧平寛人（味酒）、門屋有李（大洲）、峯雪遥毅（今治） ◇7級 伊藤浩太郎（西条）、矢野佑吏（氷見）、高木栄汰（氷見）、峯雪初依（今治）、菅希良（三津）、片岡志月（上部）、松浦美月（上部）、松浦愛珠香（上部）、藤岡葵（西条）、和田千珠（氷見）、川又陽菜（氷見）、兵頭結愛（空港通）、渡部茉心（小野）、高須賀京（小野） ◇8級 小野晴大（高津）、佐伯莉沙（西条）、鈴木陽加里（味酒）、野村吹喜（味酒）、西田弦ノ介（味生）、岡本瀬伊（味生）、和田優季（味生）、冲江旬（大洲）、今井里音奈（小野）、今井穂乃（小野）、川上瀬里奈（明浜） ◇9級 田中咲桜（本部）、白方永遠愛（大洲）、濱瑛太（明浜）、濱実侑（明浜） ◇10級 藤岡樹（西条）、松本黄茉莉（味酒）、白倉春（三津）、藤本りん（味生）、清水澤（大洲）、田中大範（大洲）

一般部 28人
◇1級 玉井亮史（西条）、佐伯大嘉（西条）、高橋蒼大（本部）、佐伯魁成（本部）、瀧平陽子（味酒）、西野心陽（空港通）、芳野翔琉（三津）、近藤恵（鷹子）、上浅史人（大洲）、西岡大輔（県警） ◇2級 守谷愛美（今治）、竹本遥空（三津）、阿部杏香（三津）、小西亜希（今治） ◇3級 福田ゆう（上部）、八木優磨（今治）、芳野穂佳（三津）、久保田颯介（味生） ◇4級 李子墨（川東）、細川愛美（空港通）、篠原隼登（鷹子）、増子茜（松山学院） ◇5級 野本絢香（鷹子） ◇6級 上浅絵里（大洲） ◇8級 藤岡翔馬（西条）、山守慶汰（味酒）、上神瞳子（内子）、大西悠太（松山学院）

Congratulations



栄えある入賞者

□第2回香川県「型」空手道選手権大会（2025/5/18 高松市総合体育館 極真会館香川県桑島道場主催）
 優勝 日吉恵琉（小4男子 本部）、阿部光真（小5男子 三津）、櫻田志歩（小5女子 内子）、井口心葵（小6女子 三津）、田邊秀磨（中学男子 上部）、村上晴紀（高校男子 本部）、村上哲也（SONEN男子C50～59歳 県警） 準優勝 福田直生（小2男女混合 三津）、山本響生（小3男子 高津）、小西奏大（小4男子上級 今治）、福田ころこ（小5女子 三津）、土井湊太（中学男子 味酒）、渡部結衣（中学女子 三津）、松木洋三（SONEN男子C50～59歳 上部）
 □第29回香川県空手道選手権大会（2025/5/18 高松市総合体育館 極真会館香川県桑島道場主催）
 優勝 堀川大心（小3男子 今治）、佐伯大嘉（中1男子 西条）、福田ゆう（中1女子 上部）、福田心優（中2・3女子 上部）、白石将博（壮年A 川東）、松木洋三（壮年B 上部）、志賀賢一（一般男子 西条）、小山晴渚（一般女子 味酒） 準優勝 片岡快晴（小3男子 高津）、佐伯蓮都（小5男子 西条）、上浅史人（中1男子 大洲） 第3位 八木結聖（小6男子 今治）、近藤悠誠（中1男子 今治）、芥川團（中1男子 西条） 敢闘賞 田邊秀磨（中2・3男子 上部）



□第7回全日本空手道ジュニア新人育成選手権四国大会（2025/5/25 愛媛県武道館主道場 悠心道場主催）
 優勝 松岡粹太郎（小4男子ルーキー 空港通）、中坂映亮（小2男子チャレンジセカンド 氷見）、古江理人（小6男子ミドルファースト 味酒）、別宮麗羽（小6女子ミドルセカンド 今治）、松本朱華（中1女子ミドルセカンド 味酒）、秦瑞来（中2男子ミドルセカンド 鷹子）、竹田依緒莉（中2・3女子ミドルセカンド 味酒） 第3位 石丸凌空（小3男子チャレンジファースト 鷹子）、峯雪初依（小3女子チャレンジファースト 今治）、池田郁翔（小5男子チャレンジセカンド 本部）
 ロリアルチャンピオンシップ愛媛県予選大会（2025/7/13 松前町公園体育館 道真会館主催）
 優勝 高須賀大和（小3男子初中級 鷹子）、井手心結（小3女子初中級 鷹子）、佐伯蓮都（小5男子重量級上級 西条）、高橋凜花（小5女子上級 本部）、白岡小夏（中1女子軽量級上級 上部）、福田心優（中2・3女子重量級上級 上部） 準優勝 白岡陸（小5男子軽量級上級 上部）、佐伯大嘉（中1男子軽量級上級 西条） 第3位 玉井陽翔（小6男子初中級 西条）、和田鈴奈（小4女子上級 氷見）、武田禅（小6男子軽量級上級 鷹子） ベスト8 鈴木璃音（小2男子初中級 上部）

□第9回悠心型チャレンジカップ四国大会2025（2025/8/17 愛媛県武道館剣道場 悠心道場主催）
 優勝 西田弦ノ介（小2初級 味生）、山本蓮桜（中学初級 味生）、日吉恵琉（小4中級 本部）、野島悠伺（一般中級 明浜）、芳野広翔（小1・2チャンピオン 三津）、日野聖太（小3・4チャンピオン 川東）、小川紗良（小5・6チャンピオン 三津）、村上晴紀（中学・高校チャンピオン 本部） 準優勝 笹山そわか（小2初級 大洲）、小西奏大（小4中級 今治）、福田直生（小1・2チャンピオン 三津）、和田鈴奈（小3・4チャンピオン 氷見）、白岡陸（小5・6チャンピオン 上部） 第3位 伊藤浩太郎（小1・2チャンピオン 西条）、清居茉央（小1・2チャンピオン 大洲）
 □第3回カシエルカップ（2025/8/24 新居浜市民体育館 正道会館KCIEL主催）
 優勝 井手心結（小3女子初級 鷹子）、白岡小夏（中1女子45kg未満上級 上部）、福田心優（中3女子50kg以上上級 上部）、丹下英人（壮年男子50～59歳軽量級 県警） 準優勝 野本咲月（小3女子初級 鷹子）、福田ゆう（中1女子45kg以上上級 上部）
 □第6回日本強育大会空手道選手権大会（2025/10/12 西条市総合体育館1Fアリーナ 空手道福田道場 主催）
 準優勝 滝野琥太郎（小3男子初中級 高津）、別宮麗羽（小6女子上級 今治）



□2025極真カラテ全中四国交流大会（2025/11/3 高松市総合体育館 極真会館桑島道場主催）
 優勝 伊藤浩太郎（小2 西条）、白石優吏茉（小4女子 鷹子）、浅海琥雅（小5男子中・上級の部 上部）、野本明那（小6女子 鷹子）、近藤悠誠（中1男子 鷹子）、松本朱華（中1女子 味酒） 準優勝 佐伯莉紗（小1 西条）、片岡志月（小5初級 上部）、菅陸人（小5男子中・上級 今治）、松下環士（中2・3男子 空港通） 第3位 中坂映亮（小2 鷹子）、小野晴大（小2 高津）、野本咲月（小3初級 鷹子）、秦章翔（小4男子中・上級 鷹子） 敢闘賞 日野聖太（小3中・上級 川東）
 □第12回四国中央空手道選手権大会 敬心杯（2025/11/24 伊予三島市運動公園体育館 日本空手道敬心館主催）
 優勝 藤岡葵（小4女子 西条）、田邊秀磨（中3男子チャンピオン60kg以上 上部）、福田心優（中3女子チャンピオン50kg以上 上部）、片岡宏泰（壮年男子チャレンジ 高津）、山下学（壮年男子チャンピオン70kg以上 今治） 準優勝 片岡陽己（年長男子チャレンジ 上部）、藤岡樹（小1男子ビギナーズ 西条）、片岡志月（小5男子ビギナーズ 上部）、伊藤めいこ（小5女子チャレンジ 西条） 第3位 中坂要一朗（小4男子チャンピオン30kg以上 鷹子）、佐伯蓮都（小5男子チャンピオン35kg以上 西条）



□第26回愛媛県少年空手道選手権大会（2025/12/7 ウェルピア伊予体育館 正道会館四国本部主催）
 優勝 渡部冠妃（小3女子ルーキー 今治）、兵頭結愛（小4女子チャレンジ 空港通）、中川琉偉（小4男子チャレンジ 本部）、芳野翔琉（中2男子チャンピオン 三津） 準優勝 笹山そわか（小2女子ルーキー 大洲）、笹山仁和（小3女子ルーキー 大洲）、伊藤浩太郎（小2男子チャレンジ 西条）、石川涼介（小5男子ルーキー 小野）、玉井陽翔（小6男子チャレンジ 西条） 第3位 門屋勇李（小2男子チャレンジ 大洲）、野本朔弥（小5男子チャンピオン重量級 鷹子）
 □大阪城杯冬の陣（2025/12/14 Asueアリーナ大阪 極真会館関西総本部主催）
 優勝 田邊秀磨（中3男子 上部） 準優勝 堀川大心（小3男子軽量級 今治）、濱井敦史（壮年男子 上部） 第3位 近藤悠誠（中1男子重量級 鷹子）

□第7回極真カラテ広島親善交流試合（2026/02/15 広島県竹原市バンブー・ジョイ・ハイランド体育館 極真会館広島県宗政道場主催）
 型の部 優勝 福田直生（小学1・2年 三津）、小川紗良（小学5・6年 三津）、田邊秀磨（中学生以上 上部） 準優勝 櫻田志歩（小学5・6年 内子） 第3位 片岡快晴（小学3・4年 高津）
 組手の部 優勝 鈴木凜奈（幼年 上部）、菅陸人（小5男子上級 今治）、上浅史人（中学生男子軽量級 大洲）、田邊秀磨（中学生男子重量級 上部）、松木洋三（壮年 上部）、小山晴渚（高校生以上女子 味酒） 準優勝 滝野琥太郎（小3上級 高津）、松下環士（中学男子重量級 空港通） 第3位 亀和来煌（幼年 川東）、石川涼介（小5男子初級 小野）
 □第29回日本正統求道拳法選手権大会 讃岐富士杯（2026/3/29 坂出市立体育館 無門塾主催）
 優勝 佐伯蓮都（上級小5男子重量級 西条）、上浅史人（上級中1男子軽量級 大洲） 準優勝 野本咲月（中級小3女子 鷹子）、堀川大心（上級小3男子重量級 今治） 第3位 高須賀大和（上級小3男子重量級 鷹子）、野本明那（上級小6女子重量級 鷹子）



2026年度 強化指定選手

組手の部

令和8年度の強化指定選手A・Bが決定しました。多くの大会が開催される中、各支部の選手が活躍し、昨年より人数を絞った厳しい基準のもとで精鋭が選ばれました。

組手強化指定選手Aは8名(昨年度18名から大幅減)。壮年部の松木洋三・山下学・志賀賢一・神原敏行の4選手が安定した実力を発揮し、ジュニア世代では佐伯大嘉・福田心優・片岡快晴・堀川大心の各選手が選出され、若手の台頭が目立ちます。

組手指定選手Bは22名。中学生・小学生の育成が順調で、鷹子・西条・今治の各支部に勢いがあり、次年度A指定を狙える選手も多数。昨年度Aからの降格例もあり、競争の激しさがうかがえます。今後の経験を積んでのステップアップが期待されます。

【組手強化指定選手 A】8人

松木洋三(壮年男子 上部 新規)、山下学(壮年男子 今治 新規)、志賀賢一(壮年男子 西条 継続)、神原敏行(壮年男子 今治 継続)、福田心優(高1女子 上部 新規)、佐伯大嘉(中2男子 西条 継続)、片岡快晴(小4男子 高津 新規)、堀川大心(小4男子 今治 継続)

【組手強化指定選手 B】22人

片岡宏泰(壮年男子 高津 新規)、田邊秀麿(高1男子 上部 継続)、上浅史人(中2男子 大洲 新規)、近藤悠誠(中2男子 鷹子 新規)、芥川團(中2男子 西条 継続)、福田ゆう(中2女子 上部 降格)、松本朱華(中2女子 味酒 継続)、古江理人(中1男子 味酒 新規)、玉井陽翔(中1男子 西条 新規)

八木結聖(中1男子 今治 継続)、別宮麗羽(中1女子 今治 継続)、佐伯蓮都(小6男子 西条 降格)、菅陸人 小6男子 今治 新規)、伊藤めいこ(小6女子 西条 新規)、中坂要一郎(小5男子 鷹子 新規)、和田鈴奈(小5女子 氷見 継続)、高須賀大和(小4男子 鷹子 継続)、滝野琥太郎(小4男子 高津 新規)、和田千珠(小4女子 氷見 新規)、中坂映亮(小3男子 鷹子 新規)、伊藤浩太郎(小3男子 西条 新規)、佐伯莉沙(小2女子 西条 新規)

型の部 ※型は強化指定選手Aのみ

型の部は今年度8名となり、昨年度の5名から増加。型競技の裾野が広がり、選手層が厚くなってきたことがうかがえます。特に三津支部からの選出が多く、指導力の高さが際立ちます。

令和8年1月10日(土)には第2回全日本極真「型」空手道選手権大会が横浜武道館で開催され、多くの入賞者を輩出しました。今年度も全国で選抜大会が開催され、出場機会の増加に伴い、強化選手のさらなる増加が予想されます。

【型強化指定選手A】8人

濱井敦史(壮年男子 上部 新規)、村上哲也(壮年男子 県警 新規)、寒作智美(壮年女子 味酒 継続)、西森正道(中2男子 三津 新規)、小川沙良(中1女子 三津 新規)、福田ころこ(小6女子 三津 新規)、日野聖太(小4男子 高津 継続)、濱本稜斗(小4男子 三津 新規)

組手強化指定選手Aに指定される条件

① 全日本少年少女空手道選手権大会の権利取得大会で準優勝以上、あるいは(一社)極真会館主催の指定大会(香川県極真カラテ交流大会、広島親善試合等)の上級の部で準優勝以上をそれぞれもしくは組み合わせで2回以上入賞した場合。

② 一般部・壮年部はこれ以外に全日本ウエイト制空手道選手権大会、全日本空手道選手権大会で8位以内の入賞、高校生以下は全日本少年少女空手道選手権大会グランドチャンピオン決定戦で3位以内に入賞すれば1回で指定される。

◆組手Aに指定された選手は合宿費の免除、(一社)極真会館主催大会の出場料全額負担、全日本大会の旅費やその他海外の大会出場時の旅費の一部負担などの支援を得られる。

組手強化指定選手Bに指定される条件

組手強化指定選手Bに指定される条件

① 四国選抜大会、(一社)極真会館主催の大会、及び他流派の四国選抜空手道選手権大会と同等な大会において4位以上入賞を年間2回以上した場合(初級を除く)

② 四国選抜大会(一社)極真会館主催の大会、及び他流派の四国選抜大会と同等な大会の初級の部で優勝を2回以上した場合

③ あるいは①、②を組み合わせで年間2回以上入賞した場合。

◆組手強化選手Bに指定された選手は合同強化稽古の参加費が免除される。

型強化指定選手Aに指定される条件

型強化指定選手Aに指定される条件

※型の強化指定選手はAのみ

① (一社)極真会館加盟道場が主催するオープントーナメント全日本型選手権大会の権利取得大会で優勝を年間2回以上した場合

② オープントーナメント全日本型選手権大会で入賞(各クラス出場人数で入賞者が決まるため)

◆型強化選手Aに指定された選手は合宿費の免除、型合同強化稽古の参加費免除、(一社)極真会館主催する型大会の出場料全額負担、全日本型大会の旅費一部負担などの支援が得られる。

大洲警察署空手教室 創設30周年記念歌

とだどうじょう うた

戸田道場の歌

ほこ ばしよ
——誇りの場所——

ゆうや そら どうじょう あ あせ ゆか し こ
夕焼けの空 道場の明かり 汗が床に 染み込んでゆく

こぶし にぎ まよ た いっぽ ゆめ ちか
拳を握り 迷いを断ち また一歩 夢に近づく

とだどうじょうたましいも ひっし ころこ かべ こ
戸田道場 魂燃やせ 必死の心で 壁を越えろ

とだどうじょう こぶしつ あ ひっし ちから あす
戸田道場 拳突き上げ 必死の力で 明日をつかめ

きょくしんかいかんほこ ばしよ
ここは極真会館 誇りの場所

な よる くや ひ なかま こえ せなか お
泣いた夜も 悔しい日も 仲間の声が 背中を押す

たお た あ おれ い あかし
倒れてもまだ 立ち上げられる それが俺たちの 生きる証

とだどうじょうたましいも ひっし ころこ かべ こ
戸田道場 魂燃やせ 必死の心で 壁を越えろ

とだどうじょう こぶしつ あ ひっし ちから あす
戸田道場 拳突き上げ 必死の力で 明日をつかめ

きょくしんかいかんほこ ばしよ
ここは極真会館 誇りの場所

とだどうじょう とだどうじょう むね きょくしん ゆめ だ
戸田道場 戸田道場 胸に極真 夢を抱いて

とだどうじょう とだどうじょう ひっし ころこ つ すす
戸田道場 戸田道場 必死の心で 突き進め

きょくしんかいかんほこ ばしよ
ここは極真会館 誇りの場所

TODADOJO

戸田道場の活動や道場生の活躍をピックアップ!



秋合宿

9月27日～28日

大洲青少年交流の家にて秋合宿を行いました。

今回は約170名が参加し、うち中学生以上が85名と、全体の半数近くを占めました。極真空手を続けてくれている道場生が増えていること、そして大人の方々にとっても日常に活かせる学びの場となっていることを、とても嬉しく感じています。



1日目は、基本稽古・ミット稽古に加え、さきやま接骨院の崎山院長を講師にお迎えし、体幹トレーニングとストレッチの特別セミナーを開催しました。

2日目は、グループに分かれての組手稽古や試合形式の練習試合をはじめ、型分解・投げ技・ヌンチャク・型稽古など、多彩な内容に取り組みました。

また、支部対抗のしっぽ取りゲームやミットリレーでは、景品をかけて大人も子どもも真剣勝負。合宿で一番の盛り上がりを見せました。

厳しい稽古の2日間でしたが、仲間とともに過ごす合宿だからこそ乗り越えられた時間だったと思います。熱心にご指導くださった黒帯の先生方、先輩方に、心より感謝申し上げます。



今治市より感謝状

第12回オーブントーナメント四国選抜空手道選手権大会は、全日本少年少女空手道選手権大会の予選大会であると同時に、「令和7年今治市林野火災」からの復興を願って開催しました。

本大会の支援金は、会場での募金も含め今治市へ贈呈し、当道場が代表として感謝状を頂戴いたしました。これはご出隊いただいた全流派のお力添えによるものです。

空手を通じて世界平和を希求する精神は、直接打撃制空手の祖・大山倍達総裁のお考えに基づくものです。



松山市壮行会

7月21日、「松山市小学生夏季全国大会出場者壮行会」が松山市役所にて開催されました。

戸田道場からも、型や組手で全国大会に出場する小学生が出席し、野志克仁市長より激励のお言葉を頂きました。



型強化稽古

横浜武道館で開催される「全日本極真型空手道選手権大会」に向けて、12月14日、戸田道場の強化稽古を行いました

11月から3回にわたり積み重ねてきた稽古の成果が、全日本大会の素晴らしい結果につながりました。



新居浜市長表敬訪問

2月17日 濱井師範代と滝野選手が新居浜市へ、第二回全日本極真「型」空手道選手権大会の結果報告に伺いました。

第一回大会の優勝者で、今大会は準優勝となった濱井師範代は、古川市長に「第三回大会でリベンジを果たし、翌年の世界大会で世界一の栄冠を必ず新居浜に持ち帰る」と力強く宣言。市長からは「頼もしい限りです。応援しています」とのお言葉をいただきました。



再生プロジェクト

2月16日 四国八十八ヶ所霊場第51番札所石手寺のお掃除イベントに、戸田道場生が参加してきました。

これは、四国八十八ヶ所霊場の第51番札所として名高い石手寺を、愛媛マンダリンパイレーツの選手と一緒に楽しく掃除するイベントで、石手寺創建1300年記念「再生プロジェクト」の一環として開催されました。



まつやまスポーツ笑顔大賞

まつやまスポーツ笑顔大賞の授賞式が、2月22日（土）に開催されました。本賞は、令和7年1月1日から12月31日までの功績を対象とし、全国大会または世界大会での実績により表彰されるものです。

戸田道場からは、13名の指導者と選手が受賞いたしました。あいにく授賞式が戸田道場の合宿と日程が重なり、指導にあたる主要な先生方は欠席となりましたが、受賞された皆様、誠にありがとうございます。

【受賞者】

- ・戸田美智男（指導者）、楠田正志（指導者）、烏谷伸（指導者）、高津信二（指導者）
- ・濱井淳史（第1回全日本「型」空手道選手権大会 壮年男子D 優勝）
- ・志賀賢一（第3回オーブントーナメント全日本極真空手道選手権大会 男子シニア40～47歳重量級 優勝）
- ・神原敏行（第7回ワールドカップ 男子40～49歳85kg以下級 準優勝）
- ・寒作智美（第1回全日本「型」空手道選手権大会 壮年女子B 準優勝）
- ・山下学（第3回オーブントーナメント全日本極真空手道選手権大会 男子シニア40～47歳軽量級 準優勝）
- ・西森正道（第1回全日本「型」空手道選手権大会 小学6年生男子 優勝）
- ・小川紗良（第1回全日本「型」空手道選手権大会 小学5年生女子 優勝）
- ・福田こころ（第1回全日本「型」空手道選手権大会 小学4年生女子 優勝）
- ・日野聖太（第1回全日本「型」空手道選手権大会 小学2年生混合 優勝）



今治市スポーツ賞

12月16日、極真会館愛媛県戸田道場からは、オーストラリア・ゴールドコーストで開催されたワールドカップで準優勝を収めた神原敏行支部長が、今治市スポーツ大賞に選出されました。

同賞は、東京パラリンピック金メダリスト・パリオリンピック銅メダリストの山口尚秀選手を含むわずか3名に贈られた最も栄誉ある賞であり、神原支部長はその1名に選ばれました。



冬合宿

2026年2月21日～22日、えひめ青少年ふれあいセンターにて、1泊2日の戸田道場冬合宿を開催しました。

110名が参加し、基本・移動・組手・型と充実した稽古を行いました！

組手と型は実力に応じたクラス分けを行い、丁寧に指導ができるように心がけました。中でも大洲空手道大会に向けて、型は一つ一つの動きを確認しながら集中的に稽古しました。

スウェーデンから来日中のヨハン師範にもご参加いただき、丁寧な指導を賜りました。日本での合宿は初めてのことで、大変喜んでいただきました。

ご指導くださった茶帯・黒帯の先輩方に心より感謝申し上げます。

合宿で得た学びを各支部での稽古に活かしていきたいと思います。



寒行

2月22日、冬合宿のあと、北条の海岸に移動して寒行を行いました。

今回も愛媛マンダリンパイレーツの菊澤敬飛選手と三好巧真選手にもご参加いただきました2月にも関わらず、この日は春のような陽気で厳しい寒行とはなりませんでした。海で気合を入れて稽古することができ、とても充実した一日となりました！

ヨハン師範、三度目の来県

2月11日、スウェーデンのヨハン師範が昨年より3度目となる修行のため松山にやってきました。ヨハン師範は令和6年3月の戸田道場主催「国際セミナー」への参加を機に松山と戸田道場が気に入り、昨年6月に2週間、10月に5週間滞在。オンラインで仕事を続けながら、潮見本部と味酒支部で稽古や指導を重ねてきました。

今回の5週間の滞在では、冬合宿や寒行、昇級審査、大洲大会など全ての行事に参加し、今や戸田道場の師範代のような存在となっています。戸田師範とは空手の考え方もよく似ており、長年の親友のような関係とのこと。

ヨハン師範はスウェーデンで200人を超える道場生を指導し、一般部が7割、その半数が女性という日本とは異なる環境を築いています。礼節を始めとした極真精神を大切に、斬新な稽古方法も多く、今後の戸田道場の発展に力を尽くしてくれることと期待されます。



中村知事を表敬訪問

2026年1月23日（金）、戸田師範とともに、各大会で優秀な成績を収めた選手・支部長の皆さんが中村知事を表敬訪問しました。

「第7回極真連合杯ワールドカップ空手道選手権大会」で準優勝した神原敏行支部長（85kg以下級40～49歳）。

「第2回全日本極真『型』空手道選手権大会」で優勝した鈴木陽加里さん（小1女子）、小川紗良さん（小6女子）、村上晴紀君（高校生男子）、寒作智美支部長（壮年女子C 45～49歳）。

知事は、試合前はどんな気持ちだったか、どのような稽古を重ねてきたのかなど、一人ひとりに熱心に質問くださり、和やかな雰囲気の中で会話が広がりました。

お忙しい中、貴重なお時間をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。



国際グラチャン 全日本ウエイト制 ベスト8入賞

第1回国際グランドチャンピオン決定戦少年少女空手道大会（通称グラチャン）・ウエイト制全日本空手道選手権大会が、2025年6月28日（土）・29日（日）の両日、大阪市中央体育館にて開催されました。

今大会のグラチャンは「国際」の名を冠し、海外の選手から日本人選手と対戦したいという声に応える形で実施され、全国各地の予選を勝ち抜いた820名の選手が出場しました。初日は小学生・中学生の部、2日目は高校生の部が行われました。

中学3年生男子無差別級（出場24名）に出場した岡裕人選手は、得意の膝蹴りを武器に勝ち上がり、ベスト8入賞という素晴らしい結果を収めました。

小学3年生男子無差別級（出場17名）に出場した堀川大心選手は、初出場ながら1回戦を勝ち抜き、見事ベスト8入賞を果たしました。

ウエイト制全日本では、松木洋三選手が壮年男子（50～59歳）重量級（出場15名）に出場。初戦で極真空手のトップ選手・徳元秀樹選手を破るという大金星を挙げ、ベスト8入賞という快挙を成し遂げました。



戸田師範 理事長代行・国際部副部長に就任
寒作智美先生 国際部委員に就任

このたび、一般社団法人 国際空手道連盟 極真会館の役員改選にともない、当道場の戸田美智男師範が理事長代行および国際部副部長に就任しました。極真会館は理事会制のもと役員を2年ごとに改選しており、戸田師範は今後、理事長を補佐するとともに、国際部の運営にも携わります。

あわせて、当道場の寒作智美先生が同会の国際部委員に就任しました。国際部は、海外道場との交流や極真空手の世界への普及を担う部門です。極真空手は創始者・大山倍達総裁の時代から世界124か国以上に広がったとされ、その国際的な活動に、愛媛の道場から携わることとなります。

日々の稽古で道場生の皆さんが積み重ねている極真空手は、世界へとつながっています。今回の就任を機に、海外との交流の機会などについても、今後機関紙等を通じてお知らせしていきます。

両名へのご支援とともに、道場への変わらぬご協力をお願い申し上げます。

UPCOMING EVENTS

第13回
オープントーナメント
四国選抜空手道
選手権大会

主催：極真会館愛媛県戸田道場

2026年
8月23日（日）
愛媛県武道館
主道場にて開催！

愛媛に集え最強の拳士達

第13回 オープントーナメント
The 13th Open Tournament

四国選抜空手道選手権大会

Shikoku Karate Championship

2026.8.23 愛媛県武道館主道場

開場／9：00 開会／10：00
主催／一般社団法人国際空手道連盟極真会館愛媛県戸田道場
後援／愛媛県・愛媛県教育委員会・愛媛県議会・松山市・松山市教育委員会
松山市議会・公益財団法人愛媛県スポーツ協会
公益財団法人愛媛県スポーツ振興事業団・愛媛大学・愛媛新聞社・南海放送
あいテレビ・テレビ愛媛・愛媛朝日テレビ

【執筆・取材協力（五十音順）】

神原敏行 楠田正志 櫻井隼斗 寒作典員

寒作智美 杉野弘昭 戸田美智男 濱井敦史

極真会館愛媛県戸田道場 機関紙『極真への道』
第17号 2026年7月発行

編集 寒作智美

発行 極真会館愛媛県戸田道場

所在地 愛媛県松山市古三津3丁目27-23（事務局）

連絡先 TEL 089-951-0569

新日本建設株式会社

は極真会館愛媛県戸田道場を 応援しています。

「暮らし」を試す

新日本建設の家は、他とどこが違うのだろう。

自然素材でできた家は、何がどう違うのだろう。

そんな疑問を解消するために、実際に泊ってみませんか？

ドアを開けた時に感じる木の香り。

素足に触れる床の感触。

目覚めた時の心地よい温度や湿度。

全身で感じてください。

本社にて無料相談会やってます。
お気軽にお越しください。

TEL:0120-41-0006
(受付時間 09 : 00～18 : 00)

〒791-0054

松山市空港通3丁目9-3
TEL (089) 971-0255

新日本建設株式会社
FAX (089) 971-0573